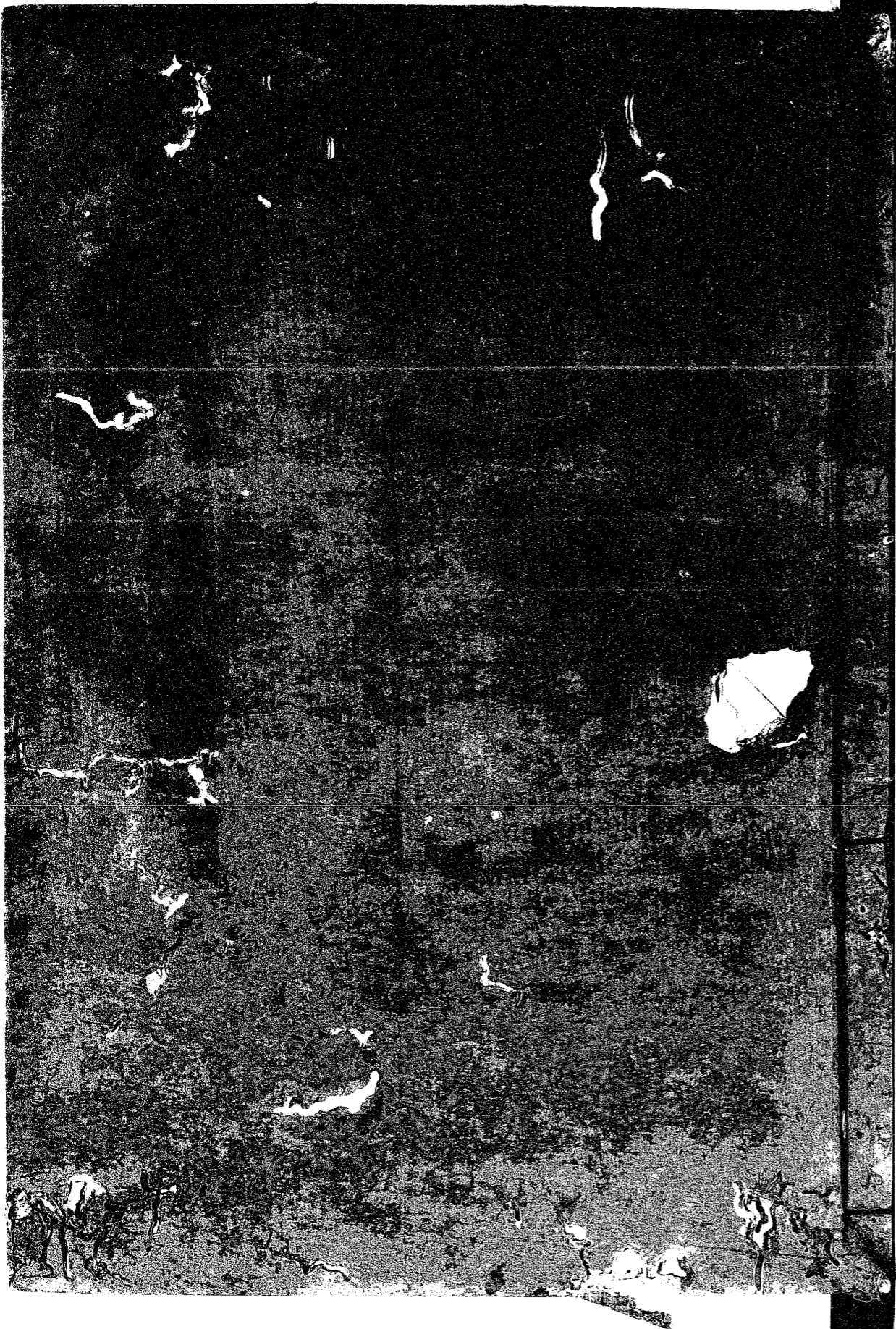
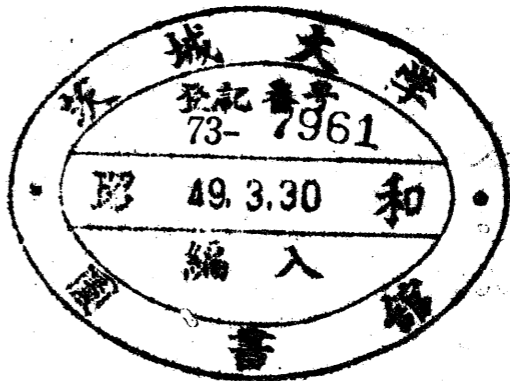


の如く藤原朝代は高家の巨魁と雖も強魁の由り討死候
もの多し一筆は後醍醐天皇の御代に於ては御代に依り御用
成り後醍醐天皇と教は御代に於ては御代に依り御用
和隆の御代に於ては御代に依り御用
百十代をたゞ方女抱いし一山懸り或は御代に依り御用
百十代に於ては御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用

治世の事

一 百一十年は古くも治りある時代なりは高家の如く治り
代りし御代に於ては御代に依り御用
能く治りある御代に於ては御代に依り御用
す乃ち御代に於ては御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用
御代に依り御用





萬葉集卷の振起

吳彦夜話大意の条

一 天下太平の時代は産を合ぬるまの礼に世の幸福を若
信の少少しくも大なる事のよしお心得者なり
後のまじりての秋木杯も手の流して右礼をせよと倉ら
とまをいへり存せよとまをいへり其巻人のまをいへり
勿得まをいへり礼をせよとまをいへり
農工商の三民を始ま外もまをいへり
好の外のまをいへり

